



社会功労

前岡山県看護協会会長・
倉敷成人病センター顧問

みやた あけみ
宮田 明美さん(75)

倉敷市田ノ上



命と健康支え半世紀

半世紀にわたり助産師として地域医療に貢献し、2016年から6年間は総勢約1万7千人の看護師、准看護師、保健師、助産師が所属する岡山県看護協会のトップという重責を担った。「人々の命と健康を支えたいとの一心で走り続けてきた」と振り返る。

愛媛県出身で、倉敷中央病院付属高等学校看護学院(現倉敷中央看護専門学校)に進学。恩師の勧めで卒業後に京都市の助産学校でも学び、倉敷市内で助産師の道を歩み始めた。

倉敷成人病センターで産科病棟棟長、婦人科病棟棟長、看護部長などを歴任。夫の立ち会い出産を積極的に進め、同センターが県内の周産期医療で重要な役割を果たす原動力となった。

看護協会の会長在任中は18年に西日本豪雨、20年から新型コロナウイルス禍に直面。豪雨では同市真備町地区の避難所へ同協会登録の「災害支援ナース」を派遣し、コロナではワクチン集団接種事業を受託するなど、県や県医師会との連携に奔走した。

現在も、同センターの研修で講師を務めるなど後進の育成に力を注ぐ。「社会に欠かせない職務の重要性を自覚し、意欲的に働けるよう背中を押したい」(小野祐香)